
夏祭り

かさのきず

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏祭り

【Zコード】

Z3745H

【作者名】

かわのわざ

【あらすじ】

夏祭りの話。主人公「裕一」は「由香」と待ち合わせしている。

(前書き)

短い時間で書いた上に、特に気負いもせぬ書いたものだから、あまりできはよくない。そこは保障します。

お祭りの日。無理やり母さんに浴衣を着せられてしまった。いら
ないって言ったのに、中学生にもなつてみると恥ずかしくなるん
だよ。

しかもその着付けが遅くなつて、由香との待ち合わせに遅れそ
になつてゐるし。

それでも、入込みをどうにか分けながら進んでいくと、由香
はちゃんと待ち合わせ場所で待つてくれた。しかも、浴衣を着
てる。

しばらぐの間僕は見とれて、思った。そうだよな。男の浴衣なん
かより女の浴衣のほうが何倍もいー。

「遅いよ、裕一。見とれてないでわっせと来い

「み、見とれてねえよ」

どうやら由香は僕に気づいていたらしく。気づいたなら早く言
つてくれればよかつたじゃないか。

「だつて、鼻の下伸ばしてて気持ち悪かつた」

「そこまで言うか！ そもそも、今日はずっと家にいるはずだった
のに、お祭りに連れてけ。と頼んできたのはお前だろ」

「頼んだんじゃないよ。命令だよ

「なお悪いわ！」

「はーはー。早く行こ、裕一」

ぐ、まったく聞いてねえな。くそ、こいつはひとつ由香にもガツン
と言つておかなければ。

さあ、言つや。言つたら言つてやるー

「あ、たこ焼きおこしかわつ

「おい、由香ー！」

「食べよつよ、裕一」

「……お、おひ

「もちろん裕一のおじいさんね」

「…………はい」

結局言えなかつた。甘いのかなあ、僕は。

「たこ焼き、おいしいね」

「ああ。そうだな」

ま、いいかな。と、僕は由香の笑顔を見ながら思つ。

うん、わるくない。

「そういえば、裕一」

「うん?」

「浴衣、結構かっこいいよ」

(後書き)

うう、全然だめだ……。
隨所隨所の文章が……。
穴があつたら入りたい！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3745h/>

夏祭り

2010年10月27日13時30分発行